

専門医の在り方に関する検討会

日本産科婦人科学会における 専門医の養成・認定の現状

日本産科婦人科学会 常務理事

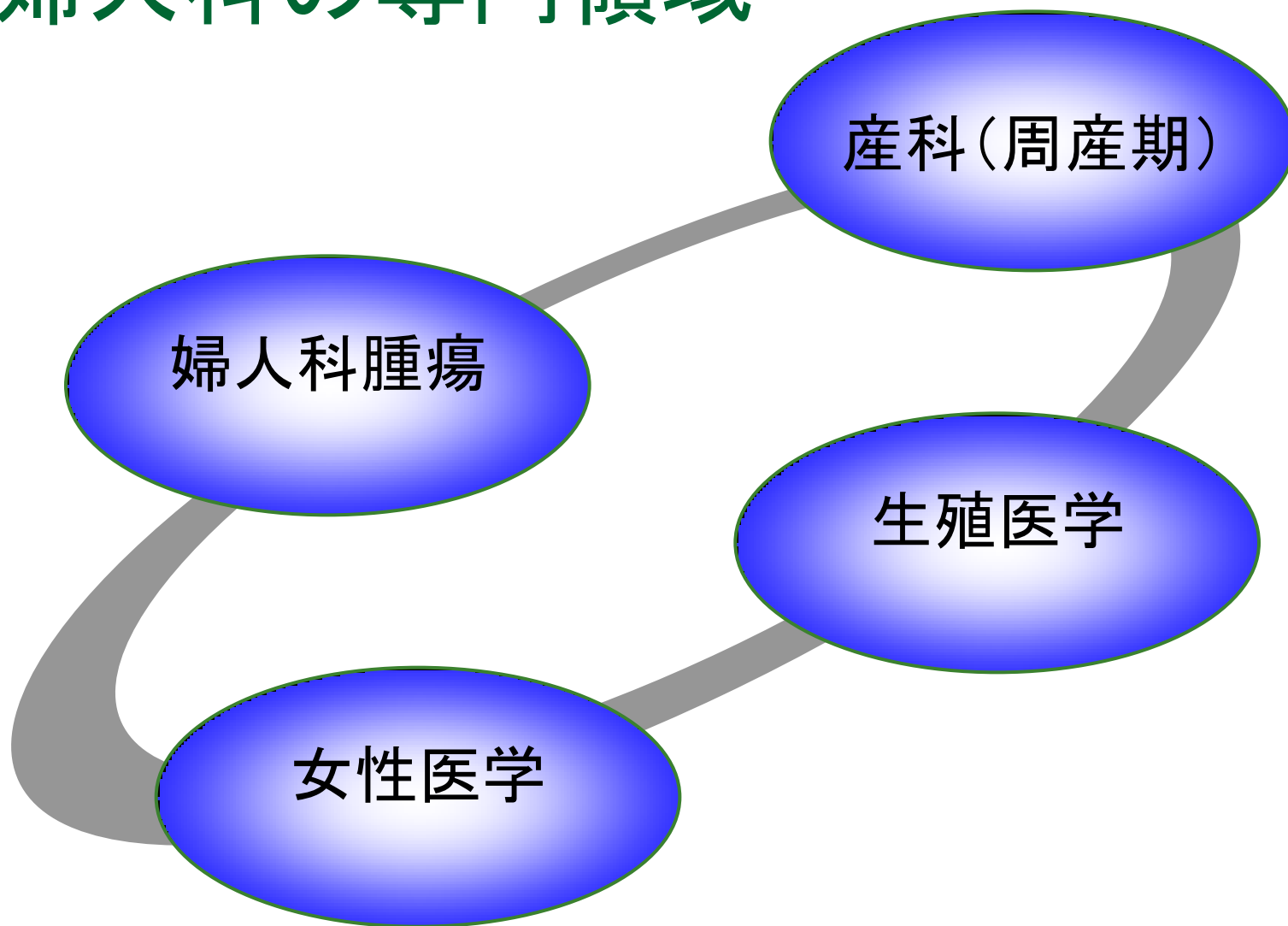
専門医制度委員会 委員長

吉川 史隆

産婦人科とは？

生涯を通じて女性の健康をサポートする
診療科である。

産婦人科の専門領域

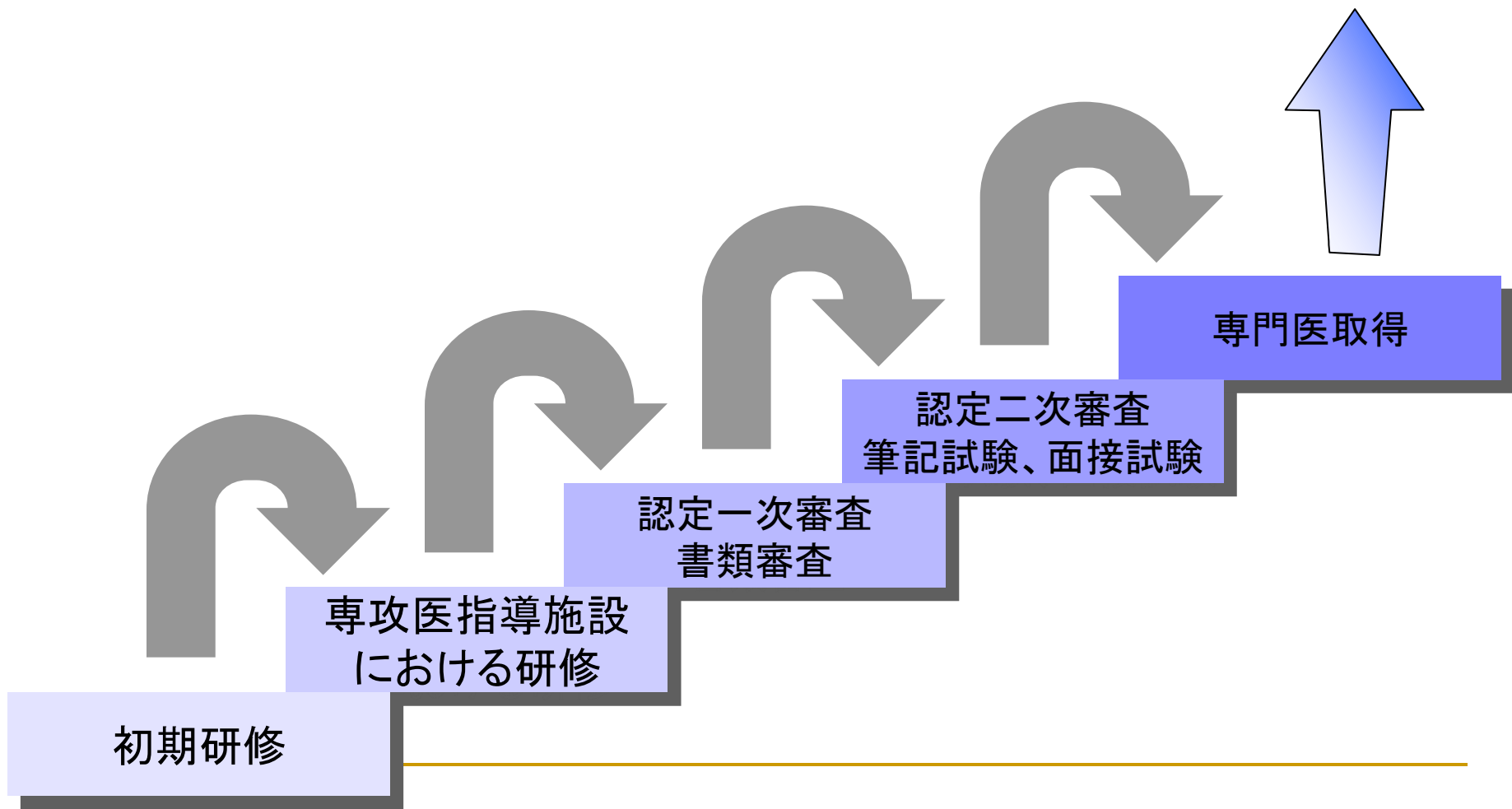


産婦人科専門医制度

- 発足：昭和62年4月
- 専門医数：12,484人（平成23年10月1日現在）
- 目的：
 - 産婦人科領域における広い知識、錬磨された技能、高い倫理性を備えた産婦人科医師の養成
 - 生涯に亘る研修の推進
 - 産婦人科医療の水準を高め、国民の福祉に貢献する。
- 目的達成のために
 - 産婦人科研修のための指導施設の指定
 - 機関誌に研修コーナーを掲載

専門医資格取得までの流れ

サブスペシャリティー取得



産婦人科専門医の医師像

- 日本産科婦人科学会が定めた専攻医のための研修目標に沿って学会が指定した専攻医指導施設で一定期間以上の臨床研修を修め、資格試験に合格した医師。

- 臨床研修の期間
 - 新医師臨床研修制度導入前に卒業した場合
 - 5年以上の臨床経験を有し、学会が定めた専攻医指導施設で、学会が定める研修目標に沿って常勤として通算3年以上の産婦人科の臨床研修
 - 新医師臨床研修制度導入後に卒業した場合
 - 2年間の初期臨床研修終了後、学会の定めた専攻医指導施設で常勤として通算3年以上の産婦人科の臨床研修

- 求められる技能
 - 婦人科腫瘍、生殖・内分泌、周産期、女性のヘルスケアの4領域に関して診療を行い、必要に応じて他の専門医への紹介・転送の判断を適切に行い、他科からの相談に的確に応えることができる能力

研修目標

□ 総論

- 基本的診療能力、医の倫理とプロフェッショナリズム、産婦人科診察と所見、検査法、基本的治療法・手技、救急患者のプライマリケア、チーム医療など全12項目

□ 各論

- 婦人科腫瘍、生殖・内分泌、周産期、女性のヘルスケアの各分野にそれぞれ一般目標と行動目標を定めている。

専攻医指導施設基準

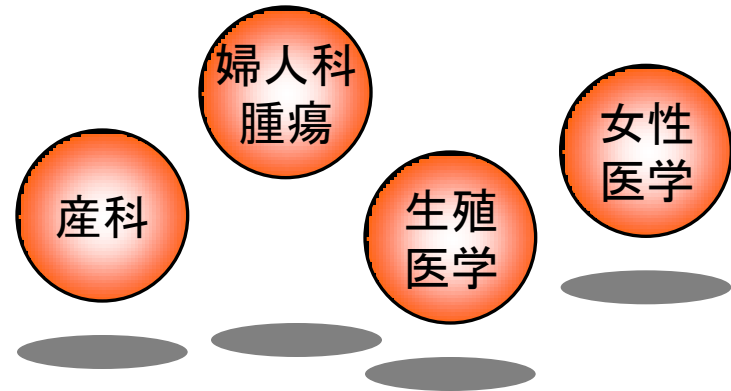
(医育機関付属病院以外の施設)

- 原則として同一施設内で他科との連携による総合診療が可能なこと。
- 年間分娩数は原則として(帝王切開を含む)200件以上あること。
- 年間開腹手術は帝王切開以外に50件以上(但しこの手術件数に腹腔鏡手術は20件までは加えることができる)あること。
- 複数の専門医が常勤し、うち1名は8年以上の産婦人科臨床経験を有すること。
- 産婦人科にかかわる医学的な情報を得られる設備を有していること(図書室があり、複数の産婦人科専門雑誌が定期的に購入されていること、かつインターネットで産婦人科専門雑誌等の内容を容易に入手できる設備を有していること)。
- 症例検討会、抄読会、医療倫理・安全等の講習会が定期的に行われていること。
- 学会発表、論文発表の機会が与えられ、指導が受けられること。

(改変に向けて協議中)

専攻医指導施設

各領域を幅広く研修できるように施設区分を設定



「専門」型指導施設

「総合型」指導施設

「連携」型指導施設

認定一次審査（地方委員会で実施）

- ① 経歴
専攻医指導施設で常勤として3年以上研修
6か月以上の期間、医育機関付属病院もしくは常勤産婦人科専門医が4名以上の施設で研修
- ② 経験すべき症例数
分娩症例：100例以上（帝王切開の執刀 10例）
婦人科手術症例：50例以上（単純子宮全摘術 5例）
子宮内容除去術：10例以上
- ③ 症例に関するレポート
婦人科腫瘍、生殖・内分泌、周産期、女性のヘルスケアの各分野1症例ずつ4症例
- ④ 研修手帳の研修目標
自己評価表欄に自己評価及び指導者評価を記載
- ⑤ 筆頭者として学会発表および論文発表を行う。
- ⑥ 過去5年間に90単位以上の学会・研修会出席
日本産科婦人科学会学術講演会に1回以上出席

認定二次審査（中央委員会で実施）

書類審査、筆記試験、面接試験（口頭試験）

① 筆記試験

MCQ方式、出題数120題（うち症例問題約 1/4）

婦人科腫瘍、生殖・内分泌、周産期、女性のヘルスケアの4分野の他、
医療倫理、医療安全、医療保険制度から出題

② 面接試験

試験官を患者または家族と想定し、疾患についての説明、理解と同意
（インフォームド・コンセント）を取得するロールプレイ方式。

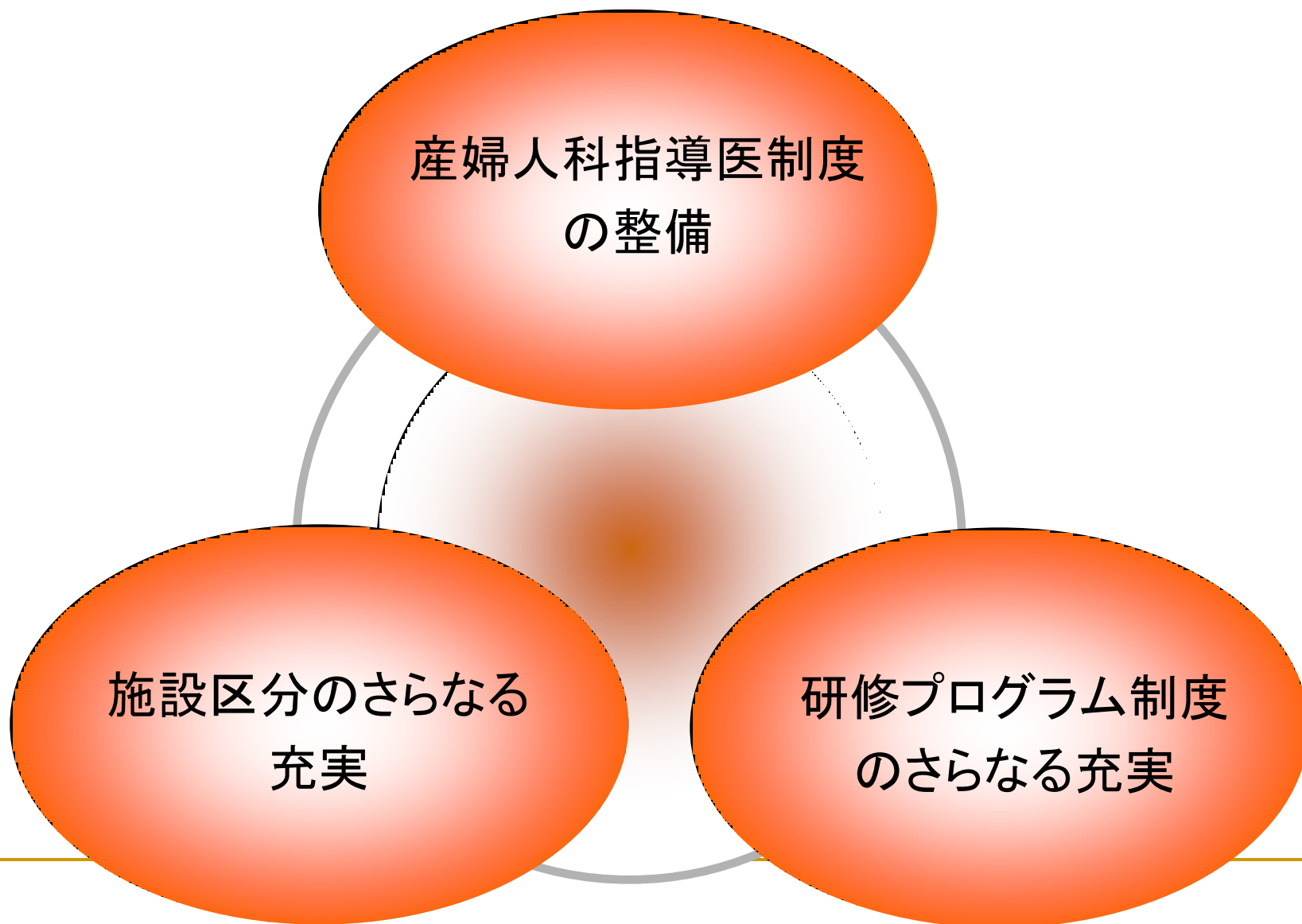
資格の更新

- 専門医資格の有効期間:5年間
- 更新の要件
 - 学術講演会、研修会に出席し、5年間で研修出席証明シールを150単位以上取得

過去3年間の産婦人科専門医試験の受験者数・合格者数・合格率

実施年度	受験者数 (人)	合格者数(人)	合格率
平成21年度	376	339	90%
平成22年度	363	305	84%
平成23年度	460	393	85%

今後の課題



産婦人科を取り巻くその他の問題

□ 女性医師問題

- 若手医師の6割以上を女性が占める。

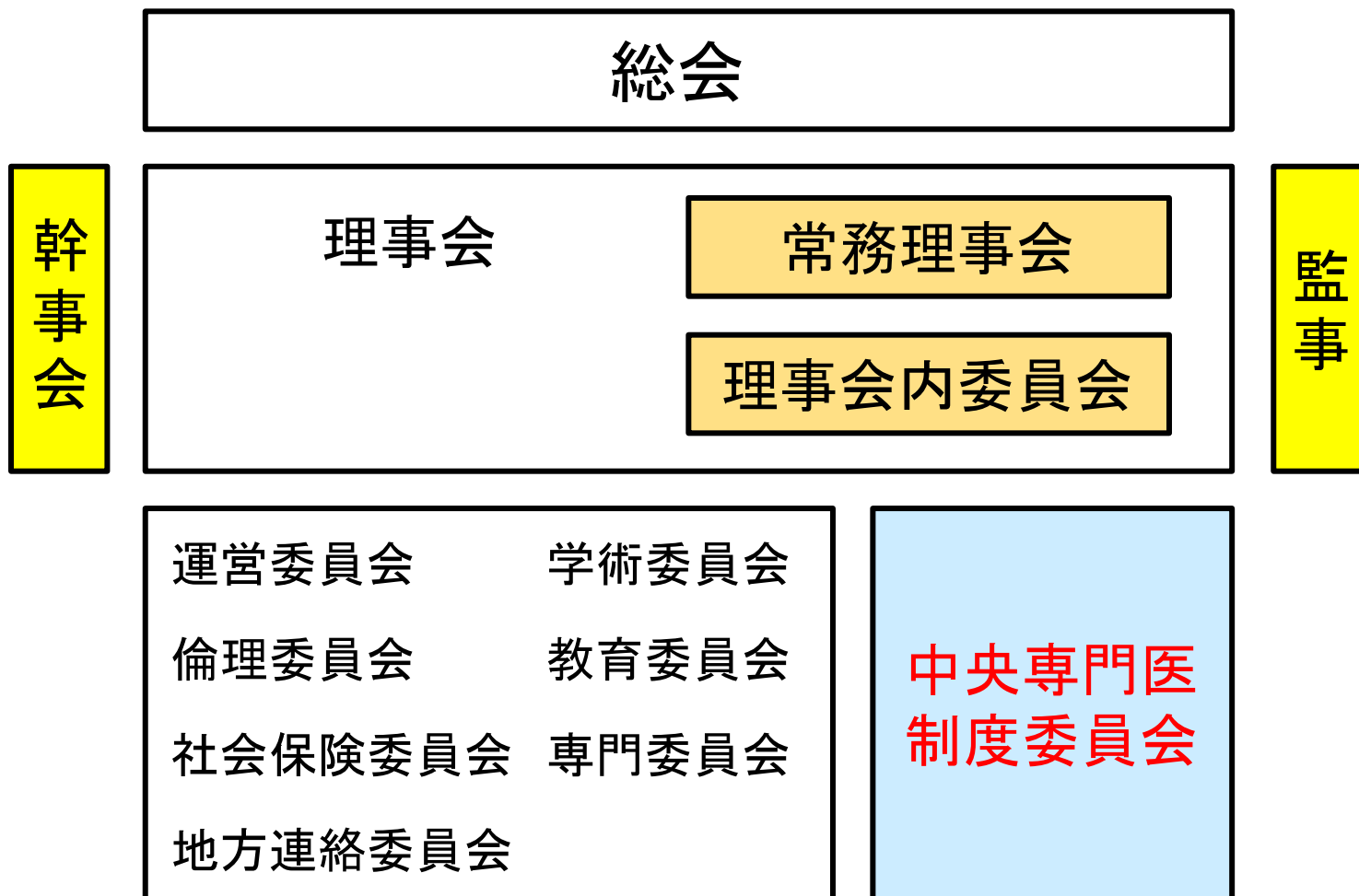
□ 地域偏在

- 専攻医指導施設の区分化がさらなる地方の地盤沈下につながるという意見もある

□ 人材確保の問題

- 主として大学の医局人事に依存

日本産科婦人科学会 組織図



専門医制度委員会

中央専門医制度委員会 第1回会議 5月頃	専門医認定1次審査:書類審査 専門医認定2次審査 タイムスケジュール:筆記試験、書類審査
中央専門医制度委員会 第2回会議 6月頃	専門医認定2次審査実施の確認
全国地方委員会委員長 第1回会議	前年度の事業報告 当該年度の事業計画 専門医認定審査 専攻医指導施設認定審査
専門医認定2次審査 7月下旬~8月上旬(土、日)	筆記試験、面接試験
中央専門医制度委員会 第3回会議 9月頃	専門医認定審査結果 専攻医指導施設認定審査結果
中央専門医制度委員会 第4回会議 1月頃	当該年度の事業報告 次年度の事業計画 次年度認定2次審査 タイムスケジュール